

プログラム

1. 開会式

8月21日(土) 9:30~10:00

日本薬学教育学会理事長、第6回日本薬学教育学会大会大会長、名城大学薬学部長

2. 大会長講演

8月21日(土) 10:00~10:30

「6年制薬学教育の向かうところ—名城大学薬学部での教育の歴史を振り返りつつ—」

大会長：灘井 雅行(名城大学薬学部教授)

3. 特別講演

8月21日(土) 12:30~13:30

「デジタル社会の落とし穴」

講師：小出 宣昭(株式会社中日新聞社顧問・主筆)

座長：灘井 雅行(大会長)

4. 教育講演

8月22日(日) 11:30~12:30

「ニューノーマルでのアクティブラーニングはどのように求められる？」

講師：溝上 慎一(学校法人桐蔭学園 理事長)

座長：大津 史子(名城大学薬学部教授)

5. 日本薬学教育学会奨励賞受賞講演

8月21日(土) 10:30~12:30

座長：乾 賢一(一般社団法人日本薬学教育学会理事長)

教育研究奨励賞

「補習・補完教育の最適化をめざして—種々の学習方略の立案・実践とその評価から—」

青江 麻衣(大阪大谷大学薬学部)

「早期臨床体験の学習方略の構築」

串畑 太郎(摂南大学薬学部)

教育実践奨励賞

「薬剤師が取り組む臨床研究の大学・医療連携に基づく教育体制の構築」

池村 舞(神戸学院大学薬学部)

「対人援助職としての薬剤師養成を指向した症候学教育の実践」

亀井 大輔(昭和大学薬学部)

6. シンポジウム

《シンポジウム 01 (S01)》 8月21日(土) 10:30-12:30

「改訂モデル・コアカリキュラムに求められる臨床教育における課題と展望」

オーガナイザー：平田 収正（和歌山県立医科大学 薬学部）

高橋 一栄（大阪府済生会野江病院 薬剤科）

S01-1 中規模病院の実務実習に求められる臨床教育とは

段林 正明（大阪府済生会野江病院 薬剤科 主任）

S01-2 大学における臨床薬学教育 — “ヒトを診る力” を兼ね備えた薬剤師教育について—

今西 孝至（京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師）

S01-3 集中治療薬剤師の日常臨床を教育に活かす

—重症患者に立ち向かえる薬剤師を育成しよう！—

西田 祥啓（金沢医科大学病院 薬剤部 主任）

S01-4 大学・病院・薬局・薬学生と考える「がん・緩和ケア」の臨床教育

—アクティブラーニングを意識した実習を通して

医療人としての自覚を醸成する—

辻井 聡容（公立豊岡病院組合立朝来医療センター 薬剤部 係長）

S01-5 救急・集中治療領域で薬剤師に求められる資質とは？

加藤 隆寛（愛知医科大学病院 薬剤部 主任）

S01-6 改訂モデル・コアカリキュラム評価と6年制薬学部臨床教育のこれから

鈴木 匡（名古屋市立大学大学院薬学研究科 教授）

《シンポジウム 02 (S02)》 8月21日(土) 10:30-12:30

「実社会より教育が遅れている？ Pharma Tech 教育の今後の課題」

オーガナイザー：土井 信幸（高崎健康福祉大学薬学部）

富澤 崇（城西国際大学薬学部）

S02-1 保険薬局の ICT 活用 現状と今後の課題

遠藤 朝朗（株式会社グッドサイクルシステム）

S02-2 現場に必要な IT リテラシー —教育担当部門が伝えるべきことは何か—

伊藤 昌裕（日本調剤株式会社 薬剤本部 教育情報部）

S02-3 薬学部における IT 教育

土井 信幸（高崎健康福祉大学薬学部地域医療薬学研究室）

S02-4 薬剤師のキャリアにおける IT リテラシーの重要性

加藤 智之 (株式会社 YOJO Technologies)

《シンポジウム 03 (S03)》 8月21日 (土) 10:30-12:30

「薬学における『災害時の医療』教育のニューノーマル～全医療者のセカンドスペシャリティとして～」

オーガナイザー：小林 靖奈 (昭和大学薬学部薬学教育学)

和泉 邦彦 (新潟大学医学部災害医療教育センター)

S03-1 災害時医療に対する薬学生の学習ニーズに関する調査研究

小林 靖奈 (昭和大学薬学部薬学教育学講座教育企画・評価学部門)

S03-2 「災害時の医療」に関する Interprofessional Education の可能性

和泉 邦彦 (新潟大学医学部災害医療教育センター)

S03-3 薬学部における災害教育

名倉 弘哲 (岡山大学薬学部救急薬学)

S03-4 東京薬科大学における災害医療薬学教育の現状と課題 ―災害医療に関する学生のニーズをいかに大学教育へ反映させるか―

平田 尚人 (東京薬科大学臨床薬剤学教室)

《シンポジウム 04 (S04)》 8月21日 (土) 10:30-12:30

「すべての薬剤師が一次救命処置 (BLS) を身に付けたニューノーマル時代に」

オーガナイザー：小畑 友紀雄 (大阪大谷大学薬学部)

木下 淳 (兵庫医療大学薬学部)

S04-1 救命処置の体系的な普及 ―救いうる命を救える社会へ 薬剤師の皆様への期待―

石見 拓 (京都大学 環境安全保健機構 教授)

S04-2 薬学教育における PUSH コースの実施について

―兵庫医療大学・大阪大谷大学での実施報告―

木下 淳 (兵庫医療大学薬学部)

S04-3 薬学教育における PUSH コースの実施について

―兵庫医療大学・大阪大谷大学での実施報告―

浦嶋 庸子 (大阪大谷大学薬学部)

S04-4 急変に対応できる薬剤師になろう

―市民が期待する薬剤師とは― / オンライン PUSH 体験コース

赤塚 敬司 (NPO 法人大阪ライフサポート協会 / 枚方寝屋川消防組合)

《シンポジウム 05 (S05)》 8月21日(土) 14:30-17:00

「薬物療法における実践的能力のロールモデルと学生養成の在り方について考える」

オーガナイザー：伊東 明彦(明治薬科大学)

湯本 哲郎(星薬科大学)

S05-1 高度薬学的管理の実務・教育に不可欠な「薬物療法における実践的能力」
—ロールモデルとなる指導薬剤師と事前学習の在り方—
永田 泰造(東京都薬剤師会)

S05-2 実務実習先でのロールモデルとの遭遇が学生の実践的能力へ与えたインパクト
—令和元年度の全国調査データのサブ解析—
濃沼 政美(帝京平成大学薬学部)

S05-3 実習施設完結型 pccOSCE トライアル —薬局での実施概要と得られた知見—
原 正朝(総合メディカル(株)薬局事業本部)

S05-4 総合東京病院における薬物療法実践的能力の対応状況
—コロナ禍における遠隔実習の経験を踏まえて—
外石 昇(総合東京病院 薬剤科)

S05-5 到達度が低い項目に関しての問題点と課題
—実習施設完結型 pccOSCE トライアルを実施して—
眞壁 秀樹(埼玉医科大学病院 薬剤部)

《シンポジウム 06 (S06)》 8月21日(土) 14:30-17:00

「薬学育児世代「就業継続」のリアル —新たな繋がり構築を目標として—

オーガナイザー：青江 麻衣(大阪大谷大学薬学部 薬学教育支援・開発センター)

永田 実沙(和歌山県立医科大学 薬学部 医療教育企画室(基礎))

S06-1 『育休世代のジレンマ』の執筆背景 —総合職女性の出産後就労継続調査から—
中野 円佳(東京大学大学院教育学研究科)

S06-2 試行錯誤の薬学部教員と育児の両立 —それでも仕事がしたいから—
浦嶋 庸子(大阪大谷大学薬学部 臨床薬剤学講座)

S06-3 教育・研究業務と育児の両立に向けての取り組み
松元 加奈(同志社女子大学薬学部 臨床薬剤学研究室)

S06-4 就業継続を当たり前とってきた経験 —若手世代として—
永田 実沙(和歌山県立医科大学薬学部 医療教育企画室(基礎))

《シンポジウム 07 (S07)》 8月21日(土) 14:45-16:45

「どう伝える？ 医療プロフェッショナリズム ～医学部のこれまでと薬学部のこれから～」
オーガナイザー：細谷 治（日本赤十字社医療センター薬剤部・城西大学薬学部）
小佐野 博史（帝京大学薬学部）

S07-1 医療プロフェッショナリズム教育 ―何を、どう教えるか―

宮田 靖志（愛知医科大学医学部地域総合診療医学寄附講座）

S07-2 患者の語りを用いたプロフェッショナリズム教育 ―ナラティブと共感―

孫 大輔（鳥取大学医学部 地域医療学講座）

S07-3 薬学部におけるプロフェッショナルを考える ―卒業時にどこまで到達するか―

小佐野博史（帝京大学薬学部）

S07-4 プロフェッショナリズムを医療現場でどう伝えるか

―臨床とアカデミアの連携こそ必須のポイント―

細谷 治（日本赤十字社医療センター薬剤部長・城西大学薬学部特任教授）

《シンポジウム 08 (S08)》 8月21日（土）14:45-16:45

「実践的な EBM 教育を進めていくには ～大学・臨床における学びの循環」

オーガナイザー：浦野 公彦（愛知学院大学薬学部）

波多野 紀行（愛知学院大学薬学部）

S08-1 薬局現場から発信する EBM

尾関佳代子（愛知学院大学薬学部・浜松医科大学医学部健康社会学講座）

S08-2 アカデミック・ディテリングによる処方支援で専門性確立へ ―基礎と臨床の教員が協働で薬学生の意識を変えよう―

小茂田昌代（東京理科大学薬学部・医療法人沖縄徳洲会千葉西総合病院薬剤科顧問）

S08-3 医薬品情報学 授業と演習 ―実践に向けた能力育成の試み―

河原 昌美（愛知学院大学薬学部）

S08-4 米国における EBM 教育 ―実践的なスキルを身につけるトレーニング―

小崎 彩（Western University of Health Sciences）

《シンポジウム 09 (S09)》 8月22日（日）9:00-11:30

「地域の保健・医療における実践的能力のロールモデルと学生養成の在り方について考える」

オーガナイザー：伊東 明彦（明治薬科大学）

湯本 哲郎（星薬科大学）

S09-1 文部科学省委託事業「薬学実務実習の諸課題についての調査・研究」に関する3年間の活動内容とそこから得られた知見

今西 孝至（京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター）

S09-2 沖縄県をモデル地域とした地域活性・課題解決 アドバンスプログラムの有用性と薬学教育への提言

佐藤 雅美（沖縄県薬剤師会）

S09-3 秋田県をモデル地域とした地域活性・課題解決 アドバンスプログラムの有用性と薬学教育への提言

小松 真紀子（秋田県薬剤師会）

S09-4 沖縄県のへき地離島で「島医者」を育成する ―沖縄県立中部病院の取り組み―

神山 佳之（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター）

S09-5 ふるさと・遠距離出身地、出身地外の遠距離地域における実務実習等の拡充に関する諸課題について

小佐野 博史（帝京大学薬学部）

《シンポジウム 10 (S10)》 8月22日（日）9:00-11:00

「レギュラトリーサイエンス教育をどう行うか？～他の科目との連携～」

オーガナイザー：頭金 正博（名古屋市立大学薬学部）

S10-1 薬学の基礎「品質保証」とレギュラトリーサイエンス

和田 幸広（国立医薬品食品衛生研究所）

S10-2 レギュラトリーサイエンス教育の薬学での浸透の鍵

―薬機法改正の背景等も踏まえ―

益山 光一（東京薬科大学薬学部）

S10-3 医療現場における能動的・発信的な薬剤師の育成を目指して

猪川 和朗（広島大学薬学部）

《シンポジウム 11 (S11)》 8月22日（日）9:00-11:00

「しくじりから学ぶオンライン教育～先人たちの知恵袋～」

オーガナイザー：上田 昌宏（摂南大学）

清水 忠（兵庫医療大学）

S11-1 “しくじり先生”から学ぶ教育のパラダイムシフト

上田 昌宏（摂南大学薬学部）

S11-2 ハンディキャップ体験の教育効果を解析してみたわかったこと

―教員の意識が教育成果に大きな影響を与えている―

渡部 俊彦（東北医科薬科大学・薬学部薬学教育センター）

S11-3 オンデマンド型オンライン授業での“しくじり”とその回避法
—学生と駆け抜けた試行錯誤の1年間—
木下 淳 (兵庫医療大学薬学部)

《シンポジウム 12 (S12)》 8月22日(日) 14:30-16:30

「薬学生対象のプレコンセプションケア教育 次世代の担い手として、当事者世代として」
オーガナイザー：宮原 富士子 (特定非営利活動法人 Healthy Aging Projects For Women : NPO
法人 HAP 理事長)
井手口 直子 (帝京平成大学薬学部 教授)

S12-1 かかりつけ薬剤師を媒体としたプレコンセプションケア啓発
宮原 富士子 (NPO 法人 HAP)

S12-2 薬学生へのプレコンセプションケア教育の試み
井手口 直子 (帝京平成大学薬学部)

S12-3 地域住民へのプレコンセプションケア教育
—健康情報拠点としての地域保健への参画—
中村 由喜 ((株) グッドメディカル あおぞら薬局富士見店)

S12-4 日本におけるプレコンセプションケア
荒田 尚子 (国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター母性内科)

S12-5 コロナ禍にあって、改めてプレコンセプションケアを考える
—日本人1万人調査の結果から—
北村 邦夫 (一般社団法人日本計画協会)

《シンポジウム 13 (S13)》 8月22日(日) 14:30-16:30

東海薬学教育連携コンソーシアム共催

「6年制薬学教育における臨床教育のあり方を考える」
オーガナイザー：鈴木 匡 (名古屋市立大学大学院薬学研究科)
平田 收正 (和歌山県立医科大学薬学部)

S13-1 薬学臨床教育の評価とその活用 —薬学教育カリキュラムの課題を考える—
山田 勉 (名古屋市立大学 高等教育院)

S13-2 6年制薬学教育における臨床薬学教育のあり方を考える
—薬局薬剤師として活躍するための臨床薬学教育とは—
永田 泰造 (公益社団法人 東京都薬剤師会)

S13-3 病院薬剤師の人材育成の観点から臨床薬学教育を考える

奥田 真弘 (大阪大学医学部附属病院薬剤部)

S13-4 ガイドラインに準拠した薬学実務実習 ―その課題と今後―

鈴木 匡 (名古屋市立大学大学院薬学研究科)

S13-5 新しい薬学教育モデル・カリキュラムの策定に向けて

―第三者評価基準で求められる薬学教育カリキュラムの在り方―

平田 收正 (和歌山県立医科大学薬学部)

《シンポジウム 14 (S14)》 8月22日 (日) 14:30-16:30

「みんなで考えよう！でら困った学生 ～多様性をみとめあう実務実習～」

オーガナイザー：日比 陽子 (名古屋市立大学大学院薬学研究科)

佐藤 由美子 (名古屋市立大学医学部附属西部医療センター薬剤科)

S14-1 実習生はみんな違う ―病院実習で考えたこと―

日比 陽子 (名古屋市立大学大学院薬学研究科)

S14-2 多様性をみとめあう薬局実務実習 ―指導スキルを応用した取り組み―

藤堂 恭正 (スギヤマ調剤薬局御器所店)

S14-3 性格の違いをとらえた教育活動 ―MBTI®を用いて認知の仕方の違いを理解する―

大里 洋一 (国立がん研究センター中央病院 国際開発部門)

《シンポジウム 15 (S15)》 8月22日 (日) 14:30-16:30

「全人的医療の実践を目指した医療者教育の必要性」

オーガナイザー：田中 佐知子 (昭和大学薬学部薬学教育推進室)

土屋 静馬 (昭和大学医学部医学教育推進室)

S15-1 「全人的医療」という言葉で問われるもの

―カナダ・マギル大学 Whole Person Care Program の取り組み

土屋 静馬 (昭和大学医学教育学講座・内科)

S15-2 ベッドサイドでの Whole Person Care (全人的医療)

―モンリオール子ども病院からのレポート―

下屋 真紀 (MUHC Montreal Children's Hospital, Nurse Clinician)

S15-3 薬剤師・薬学教育にとっての全人的医療

岡本 禎晃 (市立芦屋病院 薬剤科)

《特別企画シンポジウム》 8月22日(日) 9:00-11:00

東海薬学教育連携コンソーシアム共催

「持続可能な教育の実現のためのICTの活用と発展」

オーガナイザー：大津史子(名城大学)

長谷川洋一(名城大学)

S特-1 持続可能な教育実現のためのICTの活用と発展

～コロナ禍のICTを利用した教育実践からみえてきたもの～

大津史子(名城大学薬学部教授)

S特-2 オンライン試験の工夫と実際

鶴見太郎(東京大学大学院総合文化研究科・教養学部)

S特-3 教育の個別最適化を目指したラーニングアナリティクスの試み

島田敬士(九州大学大学院システム情報科学研究院教授)

7. ワークショップ

《ワークショップ01(WS1)》 8月21日(土) 14:30-17:00

「“逆転の発想”で、薬学人の「倫理観」について考えてみよう！」

オーガナイザー：有田悦子(北里大学 薬学部)

中田亜希子(東邦大学 医学部)

講師：石川さと子(慶應義塾大学 薬学部)

亀井美和子(帝京平成大学 薬学部)

竹平理恵子(北里大学 薬学部)

田村 豊(福山大学)

《ワークショップ02(WS2)》 8月22日(日) 9:00-11:30

「臨床教育で活かす薬学的管理と情報共有の実践 ～ケア移行における薬剤師の連携力とは～」

オーガナイザー：津田 真弘(京都大学大学院 薬学研究科 統合薬学教育開発センター)

段林 正明(大阪府済生会野江病院 薬剤科)

《ワークショップ03(WS3)》 8月22日(日) 14:30-16:30

「論文の公開査読シミュレーション ―質の高い教育研究論文の執筆を实践する」

オーガナイザー：安原智久(和歌山県立医科大学薬学部)

8. 一般演題 (e-ポスター発表)

学生発表はポスター番号に S が付きます。学生発表については、大会審査員による審査を行い、優秀発表賞を 8 月 22 日 (日) の閉会式にて大会長より発表します。

閲覧：8 月 21 日 (土) 10:30 ～ 8 月 22 日 (日) 16:30

示説：

奇数・学生発表 8 月 21 日 (土) 13:30～14:30
偶数 8 月 22 日 (日) 12:30～13:30

《初年次教育》

- P001 初年次学生の不安および期待因子の変容に関するテキストマイニング分析
○兒玉安史、山口雅史 (広島国際大学薬学部 IR 室)
- P002 薬学部 1 年生のゼミナール参加者を対象とした薬剤師業務の意識調査
○増田 多加子¹、秋山 滋男¹、濱田 真向¹、堀 祐輔¹ (¹東京薬科大学薬学部薬学実務実習教育センター)
- P003 1 年次薬学準備科目の統合による教育効果の検討 —薬学初年次過程におけるアクティブラーニングの実践例の紹介—
○齋藤博¹、和田重雄¹、佐藤卓美¹、安田高明¹ (¹日薬大薬)
- P004 初等教育の改善を目的としたカリキュラム変更の検証
○波多野 紀行¹、武田 良文¹、浦野 公彦¹、武井 佳史¹、山本 浩充¹ (¹愛知学院大学薬学部)
- P005 研究室訪問体験を通じた研究マインドの涵養 —就実大学薬学部における探究心を醸成する初年次教育の実践—
○山川直樹¹、松原由奈、洲崎悦子¹、塩田澄子¹ (¹就実大薬)
- P006 スマートフォンアプリを用いた薬用植物の単語帳作成
○武本眞清¹、川田幸雄²、木藤聡一¹、齋藤大明¹、畑友佳子¹、倉島由紀子¹、池田ゆかり¹、山田豊¹、内手昇¹ (¹北陸大薬・薬学教育研究センター、²北陸大薬・医薬品科学系)

《プロフェッショナリズム・倫理》

- P007S P-MEX による薬局実務実習生のプロフェッショナリズム評価における評価者の設定と実用可能性 —評価者の職種による影響の検討—
○真鍋司、鈴木小夜、松野昂樹、地引綾、横山雄太、河添仁、中村智徳 (慶應義塾大学薬・医療薬学・社会連携センター 医療薬学部門)

《コミュニケーション》

- P008 調剤薬局の管理職におけるアンガーマネジメント研修の効果
○鈴木 すみれ¹、小田桐 慶² (¹(株) なの花東日本、²(株) なの花東北)
- P009 コーチング技法を使用して学生同士の生活習慣改善を試みた講義・演習の実施と評価およびその改善に向けた調査 (その2)
○山下純¹、中村颯¹、檜原 奈穂子¹、井上裕文¹ (¹福山大学薬学部)

《基礎教育》

- P010 実験技能と学修態度の向上を目指した学生実習モデルの構築 —コロナ禍に実施したiPadを用いた動画撮影による実技確認(実技検定)について—
○高尾 郁子¹、金瀬 薫¹、高田 哲也¹、木村 徹¹、有光 健治²、木村 寛之²、内藤 行喜²、徳山 友紀¹、河野 享子¹、平山 恵津子¹、安井 裕之²、藤原 洋一¹ (¹京都薬科大学・学生実習支援センター、²京都薬科大学・代謝分析学分野)
- P011 Google drive を利用した自己学習支援システムの構築
○武藤純平¹、鳥取部直子²、比佐博彰² (¹山口東京理科大学・薬、²九州保健福祉大・薬)
- P012 鈴鹿医療科学大学薬学部における生物のリメディアル教育の試み —新たに導入した教育プログラムの実践—
○石嶋康史 (鈴鹿医療科学大学薬学部)

《臨床準備教育》

- P013 高血圧治療における体験型演習の実施およびその教育効果
○榊原有季子、酒井隆全、大津史子、永松正、灘井雅行 (名城大学薬学部)
- P014 実務実習を直前に控えた本学部4年生の意識調査 —禁煙外来に関する認知度、喫煙者における実習先敷地内全面禁煙に関する意識—
○佐藤亜希子(奥羽大学薬学部)

《臨床教育・実務実習》

- P015 実務者実習における診療所・薬局連携体験実習の有用性—第2報—
○羽野卓三¹、佐々木秀行¹、秋月麻友子²、土井光則²、岩城久弥³、崎山晃宏³、松原和夫^{2、4}、太田茂⁴ (¹和歌山県立医科大学サテライト診療所本町、²和歌山県立医科大学附属病院薬剤部、³和歌山県薬剤師会営薬局、⁴和歌山県立医科大学薬学部開設準備室)
- P016 地域の保健・医療・福祉への参画 —実習生は「場」で何を考え行動したか—
○中村由喜¹、保坂昌彦¹、渡辺香織¹、内藤貴夫² (¹(株) グッドメディカルあおぞら薬局富士見店1、²(株) グッドメディカル内藤薬局飯田店2)

- P017 新型コロナウイルス感染症禍におけるハイブリッド型病院実習の取り組み
○羽田和弘^{1,3}、千崎康司¹、等 浩太郎²、白松 貴子³、吉見 陽⁴、野田 幸裕⁴、山田 清文¹ (1名古屋大学医学部附属病院 薬剤部、²金城学院大学薬学部、³愛知学院大学薬学部 実践薬学講座、⁴名城大学薬学部 病態解析学 I)
- P018 薬学医療安全教育におけるアクティブラーニングの実装とテキストマイニングによる学習効果の評価
○木下徳康^{1,3}、新谷拓也^{1,3}、廣部祥子^{1,2}、中村京太³、前田真一郎^{1,2}、奥田真弘¹
(大阪大学医学部附属病院 薬剤部¹、大阪大学大学院 薬学研究科²、大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部³)
- P019 改訂コア・カリキュラムに準拠した実務実習に関する薬局薬剤師の意識調査と実習指導の理解向上を指向したワークショップの効果
○ 広瀬雅一¹、松田幸久²、山中智香³、小川圭太⁴、藤井早由利¹、長崎信浩¹ (1福山大学薬学部、²石川県立看護大学、³ウィズ・グロー、⁴東邦ホールディングス株式会社)
- P020 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムによる実務実習に関する指導薬剤師を対象としたアンケート調査
○久松亜紀¹、寺町ひとみ²、舘知也²、足立哲夫³、松永俊之¹ (1岐阜薬大・グリーンファーマシー教育推進センター、²岐阜薬大・病院薬学、³岐阜薬大)
- P021 Web 会議サービス Zoom を活用したオンライン実務実習成果発表会の試み
○高橋寛¹、熊谷峻²、松浦誠¹、奈良場博昭¹、三部篤¹ (1岩手医科大学薬学部、²岩手医科大学薬学部教務課)
- P022 改訂コアカリ導入後の病院実務実習の学習目標の実施状況と課題
○渡邊法男、安藤基純、山本清司、浦野公彦、羽田和弘、狩谷千香子、北澤諤子、矢野理恵、白松貴子、尾関佳代子、河原昌美、松浦克彦、脇屋義文 (愛知学院大学薬学部)
- P023 コロナ禍での薬局・病院実務実習における学生満足度と学修度の解析
○宗可奈子¹、津田真弘¹、山下富義¹ (1京都大学大学院薬学研究科 統合薬学教育開発センター)
- P024 改訂コアカリ導入後の薬局実務実習の現状の把握と課題の探索
○山本 清司、安藤 基純、渡邊 法男、浦野 公彦、羽田 和弘、狩谷 千香子、北澤 諤子、矢野 理恵、白松 貴子、尾関 佳代子、河原 昌美、松浦 克彦、脇屋 義文 (愛知学院大学薬学部)
- P025 コロナ感染症禍における学校薬剤師実習の実施状況について
○長田洋一¹、岩澤晴代¹、長谷川仁美¹、下山多映¹、岩井裕美¹、小佐野博史¹、岸本成史²、山本秀樹¹ (1帝京大・薬、²昭和薬大)

《遠隔教育》

- P026 オンラインを活用した教育システムを効果的に実施するための教員・学生支援体制の構築
○加藤里奈、山本仁美、小林文、田中佐知子（昭和大学薬学部教育実践学部門）
- P027 神戸薬科大学生涯研修における e-learning 研修受講者に対するアンケート調査—対面研修との比較分析—
○鎌尾まや¹、小山 豊¹、岩川精吾¹、長谷川 潤¹、宮田興子¹（¹神戸薬大）
- P028 オンライン散剤調剤実習の試みと評価
○別生伸太郎¹、堀祐輔¹（¹東薬大薬・薬学実務実習教育センター）

《AI・ICT》

- P029 学業成績不振学生を対象とした教育と実践（第12報）—ICTを活用し基礎知識の補強を目指した学習支援プログラムの開発と教育実践—
○飯田耕太郎¹（¹名城大薬・薬学教育開発センター・教育開発部門1）
- P030 COVID-19 禍でのオンデマンド講義と成績評価の関連—生化学の学生受講状況と成績の関連に関する考察—
○東 恭一郎^{1,2}、（¹明治薬科大・教育研究センター基礎科学部門、²明治薬科大・IR 室）
- P031 薬学部5年生時のICT支援型国試対策：特別学修プログラム—学生の課題形態に対する選好及びプログラムの効果について—
○福留誠¹、佐々木秀明¹、武田真莉子¹、浅田麻琴¹、安藤徹¹、鈴木亮佑¹、高橋悠太¹、寺田侑加¹、平岡義範¹、山下琢矢¹（¹神戸学院大学薬学部）
- P032 2020年度薬学系大学生のための専門語彙学習アプリの導入と評価
○スミス朋子¹、天ヶ瀬葉子¹、野口ジュディー²（¹大阪医科薬科大薬・言語文化学、²神戸学院大 グローバル・コミュニケーション学部）
- P033S 薬学部におけるIT教育の現状—シラバスから見える薬学のIT教育の現状と課題—
○中島瑞貴¹、富澤崇²、小見暁子²、土井信幸¹（¹高崎健康福祉大学薬学部 地域医療薬学研究室、²城西国際大学薬学部）

《コロナ禍の教育》

- P034 Zoomを活用したオンライン型研修会の試み・今後の課題について
○児玉典子¹、西村克己¹、内田吉昭¹、西山由美¹、藤波綾¹、安岡由美¹、川西和子¹、小山淳子¹、湯本照美¹（¹神戸薬大）
- P035 ハイブリッド型実習導入前後における薬学実習の教育効果
○高橋直仁、山足安子、中島靖子、三ヶ田潤哉、小林大介、夏目秀視（城西大薬）

P036 コロナ禍における遠隔実習を含めた実務実習実践報告 ―遠隔実習の経験をふるさと実習における学生支援に活かすために―
○中村知子、松田恵子、岡林倫子、吉山昂佑、松元大地、東ひかる、政井謙、野原真吾、永見康男、伊東真由子、山本和宜 (JA 山口厚生連 周東総合病院)

P037 リモート環境下での内容言語統合型学習(CLIL)における協調学習(community)を前向きに行うための発話分析 ―薬学英语入門における対面でのジグソー法の発話分析から推測する―
○藤波綾、竹内敦子、児玉典子 (神戸薬大)

P038 学習領域によるオンライン授業に対する学生の認識調査
○串畑太郎¹、坂優香¹、安原智久²、上田昌宏¹、栗尾和佐子¹、曾根知道¹
(¹摂南大薬、²和医大薬、)

《アクティブラーニング》

P039 チーム基盤型学習 (TBL) におけるチームパフォーマンスと学習効果の関係 ―8 年間のデータの蓄積による学習効果の検証―
○安原智久¹、青江麻衣²、永田実沙¹、上田昌宏³、串畑太郎³、栗尾和佐子³、曾根知道³ (¹和医大薬、²大阪大谷大薬、³摂南大薬、)

P040 薬学部 1 年次生に対する化学の正課外グループ学習 ―能動的な学習意欲の涵養をめざした取り組み―
○刀根菜七子¹、三島健一¹、藤岡稔大¹ (¹福岡大薬)

P041S 社会人基礎力および学生の自己評価を用いたプロジェクト基盤型学習による学習効果の評価
○秋元祐佳里¹、小島裕²、村田勇²、高橋直仁²、関智宏²、柴祥子²、井上裕²、上田秀雄²、白幡晶²、関俊暢^{1,2} (¹城西大院薬、²城西大薬)

P042 コロナ状況下でも満足度の高い TBL の対面実施
○江崎誠治、青江麻衣、初田泰敏 (大阪大谷大学薬学部)

P043 マインドマップ作成を用いた横断的な薬学知識の統合化演習
○元井優太郎、久保田隆廣 (新潟薬科大学、生物薬剤学)

《共用試験》

P044 薬学共用試験 CBT―2020 年度結果について
○石川さと子^{1,2}、伊藤智夫¹、中村明弘^{1,3}、増野匡彦¹、石塚忠男^{1,4}、松野純男^{1,5}、前田定秋^{1,6}、小澤孝一郎^{1,7}、出口芳春^{1,8}、三田智文^{1,9}、飯島史朗^{1,10}、宮崎 智^{1,11}、矢ノ下良平^{1,12}、奥 直人^{1,8} (¹薬学共用試験セ、²慶應大薬、³昭和薬大、⁴熊本大薬、⁵近畿大薬、⁶摂南大薬、⁷広島大薬、⁸帝京大薬、⁹東大薬、¹⁰文京学院大保、¹¹東京理大薬、¹²帝京平成大薬)

P045 Web 講習受講度に対する学生の取り組みと学修到達度への影響の調査
○三反崎聖¹、本間成佳¹、渡辺和樹¹、森哲哉¹ (1 高崎健康福祉大学・薬・薬学学修支援センター)

P046 2020 年度第 12 回 薬学共用試験 OSCE の結果解析
○野田幸裕^{1,2}、有田悦子^{1,3}、石田志朗^{1,4}、入江徹美^{1,5}、岡村昇^{1,6}、小澤孝一郎^{1,7}、木内祐二^{1,8}、向後麻里^{1,9}、田村豊^{1,10}、富岡佳久^{1,11}、中嶋幹郎^{1,12}、橋詰勉^{1,13}、松下良^{1,14}、松元一明^{1,15}、吉富博則^{1,10}、渡邊真知子^{1,16}、木津純子¹、奥直人^{1,16} (1 薬学共用試験セ、²名城大薬、³北里大薬、⁴徳島文理大薬、⁵熊本大薬、⁶武庫川女大薬、⁷広島大薬、⁸昭和大医、⁹昭和大薬、¹⁰福山大薬、¹¹東北大薬、¹²長崎大薬、¹³京都薬大、¹⁴金沢大薬、¹⁵慶應大薬、¹⁶帝京大薬)

《卒業研究》

P047S 薬剤師の声の高低は患者の安心感とパーソナリティ印象にどう影響するのか？
○藤江明香里¹、岩村貴紗¹、樋之津佳奈¹、中島園美¹ (1 神戸薬科大学臨床心理学研究室)

P048 薬学卒業研究における調べる力・考える力・プレゼン力の実態調査
○中谷絵理子¹、多田聡子¹、赤下 学¹、岸本成史²、砂見緩子³、安岡高志⁴、黄倉崇¹ (1 帝京大学薬・製剤学、²昭和薬科大学・薬学教育推進センター、³帝京大学医療技術学部看護学科、⁴帝京大学高等教育開発センター)

P049S 国公立大学および私立大学薬学部間における研究生産性に関する調査研究
○本多玲¹、松原佑樹²、岸本泰司^{1,2} (1 帝京大薬・物理化学、²徳島文理大香川薬)

《学修成果》

P050 学生が作成した「薬学実践問題」の分析結果及び Microsoft Teams を活用した大人数でのグループワーク実施報告
○吉村典久、開 章宏、細井信造 (京都薬科大学)

P051 新人薬剤師に求められる基本的な社会的スキルに関する研究 ―作成したルーブリック形式の自己評価シートの妥当性の検討―
○中尾幸代^{1,2}、村田明子^{1,3}、松田裕子¹、南恵理子^{1,4}、山中智香^{1,5}、沼田千賀子¹ (1 神戸薬科大学 総合教育研究センター、²薬局エビラファーマシー、³偕生病院、⁴きららみらい薬局、⁵ウィズ・グロー)

P052 TBL を用いた教育力、能動的な学修力、コミュニケーション力の可視化
○山口雅史、宇根瑞穂、井口裕介、山下ユキコ、世良行寛、瀧野純一、大西勇氣、神垣真由美、清家総史、平尾雅代 (広島国際大学薬学部)

《国家試験》

- P053S 薬剤師国家試験の質的变化 ―基礎系および実務問題を対象に―
○大久保玲奈¹、酒井隆全¹、田辺公一¹、大津史子¹（¹名城大学医薬品情報学研究室）
- P054 第106回国試の合格者の特徴から、成績下位者への指導の提案 ―第106回国試問題における合格者と不合格者の各問題の正答率を比較―
○辻 学志¹、岡本 耕司¹、松田 真佐一¹、山下 真功¹、白川 和宏¹、横井 宏哉¹、赤岩 容子¹、佐々 龍範¹、田中 創¹、鯉坂 孝志¹、杉本 実希子¹、政野 敬史¹、岩田 紘司朗¹、山田 ゆうな¹、澁路 龍大¹、稲垣 圭祐¹、村上 理¹、下野 宗隆¹、高田 直樹¹、木暮 喜久子¹（¹学校法人医学アカデミー 薬学ゼミナール）
- P055S 6年制薬剤師の国家試験実践問題の質的变化 ―臨床問題に焦点を当てて―
○犬飼光泉、酒井隆全、田辺公一、大津史子（名城大学薬学部・医薬品情報学研究室）
- P056 「通学」を選択する学生と「配信」を選択する学生の特徴と学習指導方法の提案
○佐藤 弘隆¹、岨手 昭人¹、若林 丈裕¹、小柳 美穂¹、今吉 奈穂¹、後藤 健太¹、坂口 努¹、吉田 康晃¹、伊澤 祐輔¹、村上 理¹、下野 宗隆¹、高田 直樹¹、木暮 喜久子¹（¹学校法人医学アカデミー 薬学ゼミナール）

《高大接続》

- P057 中学生を対象とした理科（化学）実験教材による主体的・対話的で深い学びの検証
○堀松 星翔¹、水野 憲一¹、大越 絵実加^{1,2}（¹青森大薬、²青森大 SDGs 研セ）
- P058 地方創生 SDGs(持続可能な開発目標)に基づいた青森県の特色ある天然素材の開発及び取組における高校生の意識調査
○多田智美¹、柴田雅之¹、堀松星翔¹、今藍理¹、網野佳奈¹、岡島未槻¹、水野憲一¹、大越絵実加^{1,2}（¹青森大薬、²青森大 SDGs 研セ）
- P059 高校 1,2 年生への「出張オープンキャンパス」における医薬品構造式集と分子模型を活用した授業実践とその効果
○木藤聡一¹、坂野健夫²、齊藤暁人²（¹北陸大薬教研セ、²星稜中学校・高等学校）

《データサイエンス》

- P060 ヘルスケア・データサイエンティスト人材育成プログラム実施報告 ―令和2年度(2020年度)東京薬科大学教育改革推進事業―
○倉田香織¹、山田寛尚¹、成井浩二¹、高須昌子²、小島正樹²、益山光一¹、北垣邦彦¹、土橋朗¹、陳惠一¹（¹東京薬科大学薬学部 ²東京薬科大学生命科学部）

《学習対象_学部》

- P061 現役薬剤師の学部教育に対する認識調査 ―アンケート調査―
○堀尾福子、池田徳典、瀬尾量、内田友二（崇城大学・薬学部）

《学習対象_卒後・生涯研鑽》

- P062 フィジカルアセスメント講座<実践コース>の受講後におけるフィジカルアセスメント実践状況に関する追跡調査
○五十嵐恵美子^{1,2}、今西孝至²、淵田真一³、門田典子⁴、佐古守人⁵、西村 豊⁶、細木誠之⁷、楠本正明^{1,2} (1京都薬科大学生涯教育センター、2京都薬科大学臨床薬学教育研究センター、3JCHO 京都鞍馬口医療センター血液内科、4JCHO 京都鞍馬口医療センター看護部、5医療法人橘会東住吉森本病院薬剤科、6みやこ薬局株式会社、7京都薬科大学病態生理学分野)
- P063 学部教育から臨床研修薬剤師教育まで一貫した臨床薬剤師教育体制確立への取組み
○縄田修一¹、柏原由佳¹、市倉大輔¹、嶋村弘史¹、藤原久登¹、黒沢雅広¹、田中広紀¹、阿部誠治¹、百賢二¹、鈴木信也¹、須永登美子¹、渡邊徹¹、田中克巳¹、佐々木忠徳² (1昭和大薬・病院薬剤学、2昭和大・統括薬剤部)
- P064 薬剤師のための臨床心理学講座開催の試み 一人対人援助職としての薬剤師養成のための教育プログラム開発に向けて—
○伊原千晶¹ (京都先端科学大学人文学部心理学科)

《患者教育・教育方法・海外研修 等》

- P065S 健康行動を促すためのフレーミング効果に関する調査
○若林知、増田多加子、堀祐輔 (東京薬科大学 薬学部 薬学実務実習教育センター)
- P066 薬剤師から見た薬剤師養成教育の評価 (第 2 報) —全国薬剤師アンケートによる旧 4 年制課程と 6 年制課程との比較—
○小林 文¹、加藤里奈¹、山本仁美¹、田中佐知子¹ (1昭和大薬学部薬学教育学講座教育実践学部門 1)
- P067 若手薬局薬剤師の教育方法 (調剤併設型ドラッグストア) —入社 3 年目薬剤師の「管理薬剤師業務」理解向上への取組—
○邑瀬誠¹、中村恵美¹、深津英人¹ (1杏林堂薬局)
- P068 若手薬局薬剤師の教育方法 (調剤併設型ドラッグストア) —オーベンネーベン制度を用いた入社 1 年目薬剤師の教育—
○中村恵美¹、邑瀬誠¹、深津英人¹ (1杏林堂薬局)
- P069 米国薬学研修旅行における一考察
○白川晶一¹、中川左理¹、瀧本竜哉¹、池村 舞¹、北條恵子¹、神谷浩平¹、辻本貴江¹、久米典昭¹、坂巻えみ²、鷹野正興¹ (1神戸学院大学薬学部、2Canada Aeromedical Repatriation Services)
- P070 薬学海外研修の成果報告
○山田陽一¹、阿藤寛明¹、加地弘明¹、松尾美奈子¹、森山圭¹、豊村隆男¹,

Listen Benjamin William², 武部好子², 中西徹¹, 塩田澄子¹ (就実大薬¹、就実大人文
科学²)

9. 閉会式

大会長、学生の優秀発表賞表彰、次回大会長